



子どもたちの未来のために…

健康被害の未然防止と支援法の早期実施を求め



1 mS v を守ろう

事故から3回目の子どもの日、健康被害の未然防止と原発事故子ども・被災者支援法の早期実施をどのように実現していくか、集い、考えましょう。

福島県では、原発周辺13市町村の子どもたち3万8114人中、甲状腺がん3人が見つかり、7人に甲状腺がんの疑いが生じています。福島県に限らず、幅広い地域での健診の拡大と、検査項目の充実が求められています。また、子ども・被災者支援法が策定されてから、10ヶ月が経ちます。政府は3月、被災者向けの支援パッケージを発表しましたが、被災者・避難者の生活の安定や子どもたちの健康を守るためには、より踏み込んだ支援が必要であり、同法の本格実施が求められています。

最も重要な支援対象地域について、被災者・避難者・市民や専門家の多くは、国内法令や国際基準に基づき、少なくとも、追加被ばく量年1mS v以上の地域を対象とすべきと求めてきました。課題の共有と解決に向けた方法を議論します。

日時

5月5日 13:30～16:20

場所

日比谷コンベンションホール（大ホール）

（日比谷公園内、旧都立日比谷図書館地下1階 最寄駅：霞が関、内幸町、日比谷）

参加費

700円（カンパ歓迎）

- ◆主催：放射線被ばくと健康管理のあり方に関する市民・専門家委員会
- ◆協力：那須野が原の放射能汚染を考える住民の会、パルシステム生活協同組合連合、放射能から子どもを守ろう関東ネット、原発事故子ども・被災者支援法市民会議、子どもたちを放射能から守るみやぎネットワーク、Snow Drop、子どもたちを放射能から守る全国ネットワーク、那須塩原放射能から子どもを守る会



プログラム、お申し込み、お問い合わせ
については裏面をご覧ください



プログラム

(予定、敬称略)

「原発事故子ども・被災者支援法の現状と今後」

「なぜ1mSvか？ 国際的な研究が示す低線量被ばくの影響」

…崎山比早子／元放射線医学総合研究所主任研究官、医学博士、高木学校

「福島県県民健康管理調査の問題点」…島菌進／上智大学教授

「チェルノブイリからの教訓」…吉田由布子／チェルノブイリ被害調査・救援 女性ネットワーク

「子どもたちの健康を守るために」…荒川朋子さん／那須野が原の放射能汚染を考える住民の会

柴田圭子さん／放射能から子どもを守ろう関東ネット

二瓶和子さん／Snow Drop

会場もまじえてパネルディスカッション

…崎山比早子／島菌進／山田真／阪上武／福田健治／吉田由布子／荒川朋子さん／柴田圭子さん／

二瓶和子さん／コーディネーター：満田夏花

※政府関係者にも声がけしています。

お申し込み

下記フォームからお申込みいただくか、ご氏名・ご所属・ご連絡先（電話、E-mail）を
FAX（03-6907-7219）までご連絡ください。

<https://pro.form-mailer.jp/fms/3faa687a41013>

お問い合わせ

国際環境 NGO FoE Japan 〒171-0014 豊島区池袋 3-30-22-203

tel:03-6907-7217（平日 10:00～18:00） fax:03-6907-7219

E-mail:finance@foejapan.org 携帯：090-6142-1807



※関連企画※「こいのぼりウォーク」

子ども・被災者支援法の実施と1mSv遵守を求め、こいのぼりを持って歩きましょう！ 公開フォーラムに連動する形で、16:45から日比谷公園発のウォークを行います。